

NewsLetter

自治医科大学地域医療オープン・ラボ

Vol.91,Mar,2015



出会いより始まった共同研究

自治医大薬理学講座臨床薬理学部門 藤村昭夫

1 はじめに

すべての物事は出会いより始まることは言うまでもありません。現在、私は自治医大卒の先生方と3つの臨床研究を実施していますが、それぞれ異なる出会いが切っ掛けとなり、共同研究を行うことになりました。以下に、それぞれの研究について、出会いも含めて紹介させていただきます。自治医大卒の（特に）若い先生方が臨床研究を志すときの参考になれば幸いです。



誕生日（ケーキを食べよう会）

2 実施中の共同研究

①研究1：

課題名；「バゼドキシフェンの適切な投与時刻を明らかにするための臨床研究」

出会い；私が大分県で行った講演を聴きに来られた匹田さやか先生（神奈川31期）から懇親会の席上、声をかけていただいたことが始まりです。話しが進むにつれて匹田先生の臨床研究に対する熱意がひしひしと伝わりました。そこで、匹田先生と相談して試験計画書を作成し、当部門（自治医大臨床薬理学）が研究事務局となり共同研究を行うことになりました。

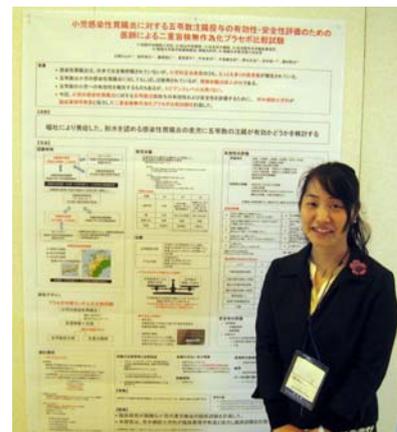
研究概要；骨粗鬆症の治療薬として広く用いられているバゼドキシフェンの重篤な有害反応として静脈血栓塞栓症があります。血液凝固能や線溶能に24時間の日内リズムが存在することより、バゼドキシフェンの投与時刻を工夫することによって静脈血栓塞栓症の危険性が少なくなる可能性があります。そこで本研究では、骨粗鬆症の患者さんにバゼドキシフェンを1日1回朝あるいは夕に1年間投与し、凝固・線溶系におよぼす影響を比較します。得られた知見は、安全性に優れた骨粗鬆症治療法の確立に役立つものと思います。なお研究班には、匹田先生、内藤純行先生（神奈川30期）、高畑丞先生（神奈川32期）および柳橋崇史先生（神奈川33期）に加わっていただいています。

②研究2：

課題名；「小児急性胃腸炎に対する五苓散注腸投与の有効性・安全性評価のための二重盲検無作為化プラセボ対照比較試験」

出会い；日本臨床薬理学会学術総会に参加された日野ひとみ先生（愛媛23期）に声をかけていただいたことが始まりです。日野先生は小児科医として活躍されていますが、日常診療で行っているある薬物療法に明確なエビデンスの無いことに気づき、自分でエビデンスを構築したい、との思いを述べられました。そこで、日野先生と相談して試験計画書を作成し、当部門が研究事務局となり共同研究を行うことになりました。

研究概要；小児急性胃腸炎の治療のために五苓散注腸投与がしばしば行われており、小児科医はその有効性を実感しています。しかし、この治療法に関する明らかなエビデンスはありません。そこで本研究では、プラセボを対照として五苓散注腸投与の有効性および安全性を評価します。本研究によって、五苓散注腸投与に関するエビデンスが構されるものと期待されます。なお、平成26年12月に松山市で開催された日本臨床薬理学会学術総会で、日野先生が研究成果の中間報告をされました(写真)。



③研究3：

課題名；「アンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬テルミサルタンのPPAR- γ 活性化作用に関する研究」

出会い；当部門では、基礎検討で得られた知見を患者で確認することによって、薬物治療法の向上に貢献しています。これまで当部門でテルミサルタンのPPAR- γ 活性化作用に関する基礎検討を行い、非常に興味のある知見を得ました。そこで、これを患者で確認するために試験計画書を作成し、地域医療推進課のメール・マガジンを通じて共同研究者を募集したところ多くの先生方から問い合わせがありました。現在、佐野文彦先生(大阪23期)と佐藤新平先生(大分30期)に共同研究者として研究に参画していただいています。

研究概要；テルミサルタンはPPAR- γ 活性化作用を介して代謝系に良い影響をおよぼすものとされていますが、臨床の場では一定した結論は得られていません。そこで本研究では、高血圧患者さんにテルミサルタンあるいはPPAR- γ 活性化作用のないオルメサルタンを投与し、PPAR- γ 活性化によって上昇する血中可溶性RAGE(advanced glycation end-products(AGEs)と結合する受容体)を指標にしてテルミサルタンのPPAR- γ 活性化作用を評価します。本研究によってテルミサルタンのPPAR- γ 活性化作用が明らかになれば、アンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬の適正使用の推進に寄与するものと思います。

3 さいごに

以上のように、出会いは様々です。どのような機会でも宜しいですが、日ごろ疑問に思っていることを投げかけてください。また、私も先生方に投げかけますので受け止めてください。先生方と共に、わが国の薬物療法の向上に寄与したいと思います。なお、研究成果を論文にして、学位を取得することも可能です。

(連絡先；akiofuji@jichi.ac.jp)

！！地域医療オープン・ラボNews Letter原稿募集！！

地域医療オープン・ラボでは、自治医大の教員や卒業生の研究活動を学内外へ発信するために、「自治医科大学地域医療オープン・ラボNews Letter」を定期的に発行しています。

<http://www.jichi.ac.jp/openlab/newsletter/newsletter.html>

☆ 自治医大の教員や卒業生の研究活動をご紹介ください

☆ 自薦・他薦を問いません

☆ 連絡先：地域医療オープン・ラボ openlabo@jichi.ac.jp